

U I J ターン者を増やす取り組みについて 27.11.15

島根県海士町を視察した。

海士町は人口減ではあるが、U I J ターンで成功している町である。一番大きい要因は職員の意識であると思う。他の自治体と違うところは、観光課は365日開いている。夜7時まで働いていることである。いつでも役場と連絡が取れる。町職員が頑張っているのに民間が休むわけにはいかない。出勤の時点でさえ物を運んだり、声かけをしている。

また、起業家には徹底して支援するところが目を引いた。例えば、漁業をしたいと言えば、漁船や漁網を貸し出したりするそうである。起業家にとって知らない町で道具を調達するのは大変であるし、手続きや組合といった面倒なことが多い。その面倒な部分を処理してくれるのが、町職員である。

さらに、驚いたのが、塩製造の工場を見学したが、建物の造りが神社になっていた。工場なのでプレハブでもよさそうな気がしたが、鳥居のある建物で作られた塩には霊験あらたかそうで、付加価値がつく。よくこれで、県の補助金がついたものと感じた。

同じものを作って競争には勝てない。ならば、付加価値をつけて大都会に売り込む発想である。

公務員という立場からは、とても思い切った決断であったことは間違いない。海士町は優秀で決断ある職員がいたからU I J ターンが成功したのだと思った。

尚、職員給与は22%カット、三役は50%カット、議員報酬は40%カットしている。